

中村耳鼻咽喉科だより

＝ 予防接種 ＝

VOL.23

▽予防接種とは？

病原性を弱めた病原体(ウイルスや細菌)や毒性を弱めた毒素を、前もって投与することにより、その病気にかかりにくくすることを**予防接種**と言います。(投与するものをワクチンといいます。)

病気の中には、乳幼児期にかかっても軽く済むが、大人になってからかかると重くなるものがあります。予防接種をうまく利用することで病気にかかったり、重症化する心配を少なくすることができます。

▽定期接種と任意接種

○定期接種

(定期A類、定期B類)

予防接種法という法律で、国や自治体が接種を強く勧めているワクチンです。

A類：…集団予防(集団の中の流行の阻止)や、重篤な病気の予防に重点が置かれているので、予防接種を受けるように努めなければなりません。
《努力義務》

B類：…個人予防(個人の発病、重症化の防止)に重点を置いて行う予防接種とされているので《努力義務》はありません。

○任意接種

接種するかどうか接種を受ける側(子どもなら保護者)に任されているワクチンで、

病気の流行状況などにより、「受けたほうがよい」というものですが、決して重要度が低いワクチンという訳ではありません。

予防接種法	定期接種 (A類疾病)	<ul style="list-style-type: none"> ・Hib(インフルエンザ菌b型)・小児の肺炎球菌・BCG(結核) ・麻疹、風疹混合(又はそれぞれ単独)・日本脳炎 ・ヒトパピローマウイルス(HPV)・水痘(みずぼうそう) ・DPT-IPV(四種混合) <p>DPT…ジフテリア、百日咳、破傷風混合 IPV…不活化ポリオ</p>
	定期接種 (B類疾病)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のインフルエンザ ・高齢者の肺炎球菌
任意接種		<ul style="list-style-type: none"> ・B型肝炎・ロタウイルス・おたふくかぜ(流行性耳下腺炎) ・A型肝炎・狂犬病・黄熱・髄膜炎菌・破傷風トキソイド ・(高齢者以外の)インフルエンザ

予防接種はすぐに効果があるの？

ワクチンによって異なりますが、十分な免疫ができるのはワクチンを接種してからひと月ぐらいかかると考えて下さい。例えば、海外渡航時や海外で生活することになった場合、時間的余裕を持ち接種の計画を立て、出発前に必要な予防接種を済ませましょう。渡航寸前での接種は行わないよう注意しましょう。

▽接種後の注意

予防接種の後に、注射したところが赤く腫れたり、しこりが出たり、熱が出たり、小児の場合は機嫌が悪くなったりするなど、好ましくない症状でワクチンとの関係が否定できないものを**副反応**といいます。副反応は、生体の一時的な反応で、本当に病気にかかるリスクに比べると軽く、重い副反応はきわめてまれです。ほとんどが二〜三日で治まります。より安心してワクチン接種をするために、予診票をきちんと記入し、接種前の健康状態を十分に確認しましょう。



① 予防接種を受けた後、三十分間は医師とすぐ連絡が取れるよう、接種場所（お子さんの）様子を観察しましょう。急な副反応はこの間に起きることが多いとされています。

② 接種当日ははげしい運動をしない（させない）ようにしましょう。

③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないように注意しましょう。

最後に

自分がかかるのを防ぐばかりでなく、他の人にうつさないためにもワクチンで予防できる病気は**予防することが重要**です。接種を受けず感染症にかかり、重症化した場合のリスクも考慮の上、かかりつけ医と相談して、決めるとよいでしょう。

母子健康手帳がなくても 予防接種できるの？

母子健康手帳がなくても、予防接種は可能です。しかし、いつも同じ医療機関で予防接種が受けれるとは限りません。ワクチンの接種回数や間隔の確認、または将来の予防接種証明書の発行の際に必要な事がありますので、必ず母子健康手帳を持参して予防接種記録のページに記載してもらいましょう。

